



公益社団法人

日本語教育学会 チャレンジ支援委員会



—キャリアパスフォーラム 第1弾—日本語学校の現場編— 開催報告

日時：2021年2月6日(土)14:00~16:00 Zoomによるオンライン開催

参加者：参加者66名(関係者含む)

協力機関：アークアカデミー新宿校、一般財団法人日本国際協力センター(JICE)、
コミュニカ学院、新宿日本語学校

チャレンジ支援委員会では、将来日本語教育にかかわりたい方・日本語教育の新たな分野にチャレンジしたい方などにキャリア形成を考えていただくためのイベントの企画・運営を行っています。今年度より、以前から春秋大会内で実施している「ぶらさ da わかば」に加え、新たに日本語教育業界の多様な現場(多様な機関・多様な学習者)を知っていただくことを目的とした「キャリアパスフォーラム」の開催を開始しました。

第1弾として2月6日(土)にオンラインで開催された「日本語学校の現場編」は、事前の参加登録者57名のうち47名(82.4%)が日本語教育学会非会員の方でした。また、当日の参加率も高く、54名(94.7%)の方にご参加いただきました。

まず、冒頭の「趣旨説明」の後、アイスブレイクとしてZOOMの投票機能で参加者の居住地、年代、所属についてお知らせいただき情報共有を行いました。次の「日本語学校はこんなところ!」ではチャレンジ支援委員から日本語学校の概要、日本語教師の資格や日々の仕事内容、新型コロナウイルス感染拡大の影響等について約20分間説明がありました。

日本語学校の現場についての「学校紹介」では、キャリアパスフォーラムの趣旨に賛同いただいた4つの日本語教育機関(学会賛助会員)にご協力いただき、日本語教育の歴史、教育理念、コースやカリキュラムの特長、使用教材、今後求める人材などについて約10分間ずつご説明いただきました。その後、事前に寄せられた質問「小さなお子様向けのクラスはありますか」「日本語教師としてビジネスの経験は不可欠でしょうか」に各機関にそれぞれご回答いただきました。

休憩後の「車座タイム」ではブレイクアウトセッションで各機関ごとに4つのルームに分かれ、参加者からの「求められる人材・スキル」や「今後、キャリアパスとしてどう具体的に就職につなげていけるか」などの質問に20分間回答していただきました。その後の「フリータイム」では参加者が各ルームを自由に行き来し、質問できるようにしました。

フォーラム終了後に回収したアンケートでは、45名の回答者(回収率83.3%)のうち、学部生42.2%、大学院生13.3%、養成講座生11.1%だったため、本企画では今後日本語教育に関わろうと考えておられる方々にお集まりいただけたことが推察できます。アンケート結果は「日本語教育の現場の声を聞くことができてよかった」等、全体的に満足度も高く好評でした。自由記述に「今後、インターンや授業見学、ボランティアなどがあれば情報の共有をしていただきたい」「日本語学校以外の現場で働く方、海外就職をなさった方のキャリアパスを伺いたい」「具体的にどのようなスキルアップの方法があるか知りたい」などの意見がありました。いただいたご感想やご意見は、次回の「キャリアパスフォーラム」にぜひ活かしていきたいと考えております。日本語教育機関のご担当者様、参加して下さったみなさま、ありがとうございました。(文責：毛利)



チャレンジ支援委員会：大嶋智規・松本明香・石澤徹・佐久間みのり・毛利貴美

問合せ先：公益社団法人日本語教育学会(チャレンジ支援委員会)

TEL:03-3262-4291(9~18時のみ) E-mail:challenge@nkg.or.jp



公益社団法人

日本語教育学会